

に南路の參贊大臣斌靜、荒淫にして回衆の心を失ひ、怨嗟の聲巷に滿つ。張格爾乃ち好機逸すべからずと爲し、先づ布魯特ブルド（吉爾幾思）を糾合して愈、叛旗を翻へせり。

以來數年、張格爾出沒自在、次第に其の勢力を逞うす。道光六年（千八百二）宣宗、伊犁將軍長齡に揚威將軍を授け、將軍德英阿をして代て伊犁を鎮せしめ、且つ陝甘總督楊遇春を欽差大臣に命じ、陝西、甘肅の兵五千餘を率ゐ、先づ馳せて哈密に趣き、諸軍を會して進剿せしむ。同七年將軍長齡、楊遇春と兵三萬を率ゐて、喀什噶爾に向ふ。張格爾大衆を統べ之を洋阿巴特ヤンアバトに邀へ、激戰數時、張格爾遂に支へず、敗れて山中に走る。長齡乃ち楊遇春、楊芳をして追捕せしむ。

張格爾の
就縛

是に於て楊芳は阿賴アライ（葱嶺アライの脊に於て、即ち喀什）に、楊遇春は色勒庫爾ソルに出で、南北相分れて、叛黨を追ふ。然れども遂に獲る所なく、却て楊芳は阿賴アライ山中に浩罕の襲撃に會ひ、殆んど危からんとし、且つ兩軍共に糧食に窮乏せし爲め撤回せり。清廷張格爾の後患を爲さんことを虞れ、必ず之を捕へんと欲し、官位賞金を懸けて彼を求む。張格爾尙ほ殘兵を集めて、再舉を企つ。長齡、土人を塞外に送り、揚言せしめて曰く、清兵既に撤去し、喀什噶爾、空虛なり、衆首を翹て、湖查の歸城を望むと。而